

第 13 回リプロダクション研究会「国境を越える身体とツーリズム」/科研費研究「女性に親和的なテクノロジーの探求と新しいヘルスケア・システムの創造」共催 資料

2011 年 1 月 22 日開催

精子提供と卵子提供の比較検討

柘植あづみ 明治学院大学・社会学部社会学科/医療人類学

要旨 第三者が関わる「生殖補助技術」については、卵子や精子、代理出産などの商業的な側面が倫理的問題として指摘される。たしかに、精子や卵子の価格や、代理出産をする女性への報酬や斡旋料は市場原理によって決まり、技術を利用する者と技術を提供する者の経済格差は大きい。しかし問題はそれだけだろうか。精子と卵子の提供を比較検討しながら、身体由来の物質を提供することに関わる様々な社会的・文化的な課題を考えたい。

既出論文

「生殖技術と女性の身体の間」『思想』908号、pp.181-198、2000年

「生殖技術と商品化」『アソシエ』vol.9、pp.169-180、2002年

「再生医療 先端技術が「受容」される時--ES細胞研究の事例から (特集 先端医療--資源化する人体)」『現代思想』30(2)、pp.76-89、2002年

「精子・卵子・胚提供による生殖補助技術と「家族」」『家族社会学研究』15(1)、pp.48-54、2003年

「卵子・胚・胎児の資源化—何が起きようとしているのか—」、鷺田清一・荻野美穂・石川准・市野川容孝編『身体をめぐるレッスン2：資源としての身体 Economy』岩波書店、2006年

「再生医療の倫理問題 (思想の言葉)」『思想』岩波書店、2008年4月

『妊娠を考える—くからだ>をめぐるポリティクス』NTT出版、2010年10月(予定)